

ミッション	「地域社会・産業界に貢献する人材の育成」	今年度の重点目標	1. 工業高校らしいエチケット・マナーの育成 2. 授業改革・学力向上 3. キャリア教育による進路実現 4. 心の教育と部活動・生徒会活動の推進 5. ものづくり人材育成 6. 開かれた学校づくり
目指す生徒像	自主・自律の精神を持ち創造力豊かな 他者を思いやる人間を目指す		

年度当初		評価結果（2月）						
評価項目	評価の具体項目	現状	目標（年度末の目指す姿）	評価基準	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
工業高校らしいエチケット・マナーの育成	(1)全職員の一貫協力的指導（全体集会、集団行動（1年生オリエンテーション）、礼法指導（2・3年生））	・さまざまな行事の場面だけでなく、日常から指導を重ね、成果をあげてきた。	・職員全体が一致協力し、組織的に生徒への指導を行い、成果をあげる。	・教職員「一致協力して指導にあたった」「全体集会時の態度が良い」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。	・全体集会での指導に全職員で取り組む。 ・学年団、教科、分掌間の密な連携を行い、生徒に関する情報の共有を行う。 ・4月当初にオリエンテーションや体育の授業で礼法指導を徹底する。	○教職員集約87.3% 90.0% ・履き物を揃えることなど教職員の共通認識を固め、指導した。 ・オリエンテーションや体育の時間を中心にマナーアップを丁寧に指導した。	A	・引き続き全教職員で連携を固め、組織的な生徒指導を行う。 ・行事の場面はもちろん、日常からマナーや5Sの指導を行う。
	(2)挨拶・言葉使い・態度等の指導徹底	・年間8回実施した頭髪服装指導で4回以上指導を受けた生徒が46名（8.5%）であった。	・挨拶励行・言葉遣い指導により生徒のマナーが向上する。	・教職員「前年度に比べて挨拶できた」「言葉遣い良い」生徒「前年度（中学の時）に比べてマナー向上」保護者「前年度に比べてマナー指導徹底」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。	・全職員で日常的な挨拶の励行に務める。 ・「マナーアップ運動」などで、部活動の生徒による挨拶運動に継続して取り組む。 ・授業開始のチャイムと同時に挨拶を行い、時間厳守を徹底する。	○教職員集約90.0% 89.8% 生徒98.9% 保護者97.4% ・職員入室時の挨拶などが適切にできるようになった。 ・マナーアップさわやか運動などで、全職員・生徒会執行部・生活向上委員・各部活動の生徒・保護者の挨拶運動を通じ、マナーの向上に努めた。	A	・引き続き全教職員・生徒会・各部活動・保護者で連携を固め、挨拶励行や言葉遣いの指導を行う。 ・入室時のマナーなど様々な機会を捉えて、指導を徹底する。
	(3)生徒指導（頭髪服装指導）の徹底（生徒会との連携）	・一部の生徒で遅刻することの認識の甘さが目立つ者もいた。	・保護者に指導方針、指導内容の理解と協力を求め、頭髪服装指導で指導を受ける生徒数を減少させる。	・頭髪服装指導で年間4回以上指導を受ける生徒数が減少すればA。 ※	・全職員で日常的に指導すると共に、定期的な頭髪服装指導、身だしなみの向上を図る。 ・進路意識を常に持たせ、規律ある生活が送れるようにする。	○指導生徒数45人⇒15人 ・定期的に頭髪服装指導を実施し、担任と連携しながら粘り強く指導した。 ・保護者と密接に連携を取りながら指導した。	A	・引き続き日常より学校生活の規範意識・進路意識を持たせる。 ・引き続き保護者に、本校の指導方針への理解・協力を求める。
	(4)遅刻指導の徹底（学年団・生徒指導部連携）		・諸問題に早期に対応し、連携を密にし、生徒の遅刻発生数を減少させる。	・各学期比較で遅刻10回以上の生徒数が50%以上減ならばA。 ※	・登校指導を通じて、全職員で指導に当たるとともに、早期から保護者への連絡を徹底する。 ・学年、生徒指導部、教育相談部、生徒会等の連携を密にする。	○昨年年度17名 今年度22名 ・遅刻の多い生徒については、本人への指導や保護者への連絡などを行ったが、遅刻回数は前年度より多くなった。	C	・担任・生徒指導部・保護者・相談部が情報を共有して、連携しながら遅刻者数減少を含む包括的な生徒指導を行う。 ・様々な機会を捉え、粘り強く時間厳守の大切さを説く。
授業改革・学力向上	(1)授業公開、TT等を通しての相互研鑽による授業の質向上	・授業に集中し、基礎学力を定着させるため、発問・補助教材（プリント等）を工夫した。 ・本校では4名がエキスパート教員に認定されている。 ・習熟度別授業の実施や、成績不振の生徒に対して補講等を実施してきた。	・授業改革を進め、基礎学力を定着させる。 ・生徒「授業がわかる」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。	・教職員「授業・実習で学習意欲向上の工夫を図った」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。 ・エキスパート教員の実践を参考にしたり、研究授業、公開授業等各種研修の機会を活用するなど、相互研鑽を図る。 ・実習班の編成を工夫し、生徒による学び合いを推進する。 ・習熟度別の授業形態で基礎力の向上を図る。	○教職員94.3% 生徒90.5% ・全教職員が授業アンケートを実施し授業改革を図った。生徒の授業への満足度は概ね高かった。 ・TTや習熟度別授業はきめ細かい指導ができ、生徒の集中力アップにつながり、成績不振者が減少した。	A	・効果的な視覚教材の工夫や実習の取り入れ方の工夫を行う。 ・提出物をきちんと提出させるよう指導し、授業に真摯に向き合う姿勢を養う。 ・学び合いをもっと深めることで、生徒の理解度を深める。	
	(2)基礎学力の向上（SPI小テスト・模試による基礎学力向上）	・26年度はジュニアマイスター取得者が25名（ゴールド、シルバーの合計）であった。 ・課題研究等を進めながら課題解決能力を育成することができたが、プレゼンテーション力の向上に課題がある。	・基礎学力を定着させ、就職試験等に対応できる力をつけさせる。 ・ジュニアマイスター取得者を増加させる。	・教職員「基礎学力定着が図れた」生徒「学習意欲が高まった」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。	・定期考査前などに成績不振者対象の補講を行う。	○教職員90.6% 生徒81.6% ・生徒の学力・行動力・個性を勘案し、実習班を編成した。 ・定期テスト前に成績不振者対象の補習を行った。	A	・生徒の意欲や言語活動が高まる工夫を授業に取り入れる。 ・発問・プリント・板書を工夫し、学習意欲が高まるよう指導する。
	(3)専門的資格取得の促進（ジュニアマイスター取得者増）			・実人数12名以上の生徒がジュニアマイスターを取得すればA。 ※	・早期から資格取得の重要性を教え、早めの取組を促す。	○1年7月 56.7 12月 57.8 2年7月 59.1 12月 58.5 ・毎週水曜日にSPI小テストを実施し、基礎力の向上・学習習慣の定着を図った。 ・3年生は就職模試、SPI校外模試、公務員模試などを実施した。 ・SPI小テストの低得点者延56名に対して補習授業を行った。	A	・生徒対象及び教員対象の基礎力診断適性検査結果の説明会を行い、学習習慣・生活習慣の見直しを行う。 ・引き続きSPI小テストを継続し、基礎学力を定着させる。 ・就職・進路に対応する力をつけるため、わかりやすい授業内容を常に心がける。 ・SPI小テストの低得点者に対して、引き続き補習授業などを行い丁寧な指導を心がける。
	(4)プレゼンテーション力の向上		・課題研究等あらゆる場面を通じてプレゼンテーション力の向上を図る。	・生徒「課題研究等を通じてプレゼンテーション力が向上した」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。	・科内発表会を充実させ、専門外の者が見てもわかりやすい発表にする。	○生徒集約91.7% ・発表会では各班とも要点をよくまとめ、聞き手にわかりやすい発表を行った。	A	・今年度同様、下級生も各発表会に参加し、次年度の専門科目の興味関心を向上させる。 ・口頭で発表して表現する力を特に身につけさせる。
キャリア教育による進路実現	(1)系統だったキャリア教育による進路意識・職業観の育成	・26年度は就職希望者は100%内定した。	・健全な職業観・勤労観を育成し、進路適性の理解と情報の活用を促す。	・教職員「明確な進路意識確立できた」生徒「進路指導が充実している」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。	・進路決定につながる情報の提供をさらに強化する。3年生は学年合同LHRを実施する。また、1、2年生には学期毎のLHRを活用し、進路講演会を実施する。	○教職員92.3% 生徒92.9% ・一次応募の内定率が84%と非常に高く、離職率は県平均の4分の1であり、進路指導の成果が出ている。 ・計画的に進路LHRや講演会を実施した。応募前見学に多くの生徒が参加するなど進路意識が高まった。	A	・3年間を見通した進路計画により、生徒の進路実現を図る。 ・引き続き放課後キャリア塾、外部有識者による進路講演会などを活用し進路意識を高める。 ・引き続き機会を捉えて健全な職業観・勤労観を育成していく取り組みを続ける。
	(2)コミュニケーション能力の育成による進路実現（1分間スピーチ・面接指導の充実）		・コミュニケーション力をつけ、進路実現につなげる。	・生徒「1分間スピーチはコミュニケーション力の向上に役立った。」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。	・面接指導、個別指導等を実施するとともに、対話力を高めたり、作文指導を徹底する。2、3年生に、面接で実力が発揮できるようSHRで1分間スピーチを行う。	○生徒集約91.7% ・補習、各種模試、面接指導を充実させた。 ・1分間スピーチが効果があった。面接指導にも多くの生徒が自主的に参加した。	A	・引き続き進路ガイダンスや面接指導などの個別指導を通して、進路実現を図る。 ・1分間スピーチや課題研究発表などの、自己表現の時間を今後も充実させる。
	(3)インターンシップ・企業研修の推進		・2学年全員で3日間実施する。 ・長期休業中に希望者で実施する。	・生徒「インターンシップは勉強になった」「充実していた」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。 ・報告会等で外部の方からも評価を受ける。 ※	・各専攻の専門性を生かせるよう企業開拓に努めるとともに、綿密な打ち合わせや事前指導を行い、研修を充実させる。	○生徒集約98.3% ・インターンシップに向け事前指導を徹底した。 ・生徒は意欲的に取り組み、進路選択の一助となった。	A	・インターンシップ中の見回り等も充実させ、研修を充実させる。 ・専門性を生かせる企業開拓を今後も継続させる。
	(4)企業研修旅行の充実	・インターンシップ、企業研修旅行等で職業観の育成を進めた。	・県外の大手企業を見学することにより、職業観の育成をはかり、職業選択の一助とする。 ・専門に関わる企業見学により、専門の学習に役立っている。	・生徒「研修旅行は勉強になった」「充実していた」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。 ・生徒「企業見学は勉強になった」「充実していた」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。	・学科改編、バス料金制度改定を受け、研修計画を見直す。 ・研修先の精選と入念な計画により、効果的な研修となるよう務める。	○生徒集約100% ・大規模な企業を見学し、進路意識の向上につなげ、職業観を養った。 ・専門性を生かせる企業開拓を行った ・保護者の本校のキャリア教育に対する支持は98.2%であった。	A	・今年度の反省を行う研修旅行実施委員会、来年度に向けての研修旅行検討委員会の開催時期を早め、次年度に向けての検討に万全を期す。

心の教育と部活動・生徒会活動の推進	(1)部活動の活性化(部活稼働率の向上)		・運動部活動の奨励と強化、文化部活動の活性化を図り、加入率と稼働率の向上を目指す。	・部活動と同好会の加入率が80%以上ならばA。 ・部活動稼働率が95%以上ならばA。(1)	・クラブ一斉会議で部活動加入の意義を生徒会執行部より説明する等オリエンテーションを充実させる。 ・部活動を継続するための指導を徹底する。	○部活動加入率90.3% ○部活動稼働率98.6% ・クラブ一斉会議や授業などで折に触れて部活動加入の意義を説いた。	A	・保護者や地域の理解を得ながら部活動加入を促し、社会性を養う。 ・顧問や担任と連携し、部活動活性化に向け、引き続き加入率・稼働率の向上を図る。
	(2)生徒会活動の活性化(学校祭・球技大会の充実)	・26年度の部活動加入率は85.6%、稼働率は97%であった。 ・ゴミのポイ捨て撲滅に向け、生徒会が活動を展開した。	・生徒会を中心として自発的な活動ができるようにする。	・教職員「学校祭等とおしてリーダー育成が図れた」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。	・学校行事等やLHRを通して、生徒の積極性を涵養する。コミュニケーション能力の向上と絡めて指導する。生徒が達成感を持つことができるように、生徒会を中心に学校行事に全員が関わられるように工夫をする。	○教職員集約84.9% ・学校祭では生徒の自発的な創意工夫が見られた。 ・執行部が学校祭全体の企画から取り組み、各クラスのサポートにも自発的に取り組んだ。	A	・引き続き生徒会を中心とする行事では、責任感と主体性を養い、自主的な活動ができるよう取り組む。 ・生徒が達成感を持つことができる取り組みを引き続き工夫する。
	(3)心身の健全育成	・朝読書等による全体の読書量は増えたが、学年が上がるとともに読書量が少なくなる傾向がある。	・静かに朝読書に取り組むとともに個別の読書指導も行う。	・生徒「読書量が増えた」「視野が広がった」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。	・図書委員会活動や早期貸出等の朝読書に関わる取組を推進する。 ・毎月1回の早期貸出しを行い、朝読書の啓発を図る。	○生徒集約93.2% ・朝読書は順調に取り組めている。 ・朝読強化週間における昇降口貸し出しなどに取り組んだ。	A	・読書の意義・意味を教える場をつくり、読書活動を一層推進する。 ・図書委員会の活動や早期貸出し等の取り組みに引き続き取り組む。 ・読書の大切さを折に触れて強調する。
	(4)人権教育の推進		・一貫性のあるテーマで人権教育を推進するとともに、人権教育の4側面を充実させる。	・教職員「人権課題の解決に向けて推進できた」生徒「人権学習にしっかりと取り組めた」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。	・人権教育部専任と担任団の連携を密にし、生徒の実態に応じた学年ごとの人権教育の具体的な取り組みを設定する。 ・生徒が主体的に参加できる人権教育LHRの展開を図る。	○教職員98.1% 生徒93.8% ・分掌・学年が念密な打ち合わせを行った。 ・LHRでは生徒同士で積極的に意見交換できた。	A	・LHRでのワークシートの記入内容を分析し、授業の流れや意見交換のポイントを再検討する。 ・分掌と担任団との連携をより密にしていく。
ものづくり人材育成	(1)安全教育の推進		・安全に対する予備知識の指導を徹底し事故が起きないようにする。	・教職員「安全教育が推進できた」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。	・実習時に5Sと運動した安全面での指導の徹底を図る。	○教職員集約100% ・実習の始めに安全指導を行い、終わりに5Sを徹底した。	A	・生徒が安全の重要性を理解し、高い意識を持つ教育を進める。 ・引き続き5Sと運動した注意喚起・危険予知を徹底する。
	(2)5Sの徹底	・朝清掃を行い、環境への意識を向上させた。	・5Sを徹底するとともにゴミの減量化を図り、環境を大切にできる人材育成を推進する。	・教職員「5S徹底できた」生徒「掃除を頑張った」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。	・5Sの徹底を図るとともに、環境問題へ意欲的に取り組む意識を育てる。	○教職員88.7% 生徒96.1% ・5Sの徹底を行い、ゴミの減量化に取り組んだ。 ・身だしなみなどにも重点を置いた。	A	・今後も掃除の指導を徹底し、5Sの徹底を図る。 ・生徒会とも連携し、生徒の校内美化への自主的な取り組みを促す。
	(3)ものづくり事業の充実(地域委員会等との連携)	・若年者ものづくり競技大会電気工事職種で3位、電子回路職種で敢闘賞を受賞するなど、大きな成果をあげた。	・高校生ものづくりコンテストで上位入賞を果たす。 ・地域委員会と連携し、ものづくり事業の充実を図る。	・教職員「ものづくりで成果があがった」生徒「技術・技能があがった」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。 ・ものづくりコンテスト等で全国大会出場生徒(団体)があればA。※	・ものづくりコンテストへの参加を推奨し、入賞を目指す。 ・地域委員会を活性化し、専門教育の改善を図る。	○教職員97.1% 生徒96.6% ・ものづくりコンテストに出場し、各部門とも上位入賞を果たした。 ・地域委員会の提言により、様々な改善を図った。 ・マイコンカー大会で12年連続全国大会に出場した。	A	・引き続きものづくりコンテストへの参加を奨励し上位入賞を目指す。 ・各科目地域委員会や課題研究全体発表会での地域委員の提言を、今後の工業教育に生かしていく。
開かれた学校づくり	(1)地域社会や小中学校との連携	・昨年度は中学生や教員・保護者へ学校公開や体験学習をとおして本校教育についての理解をいっそう深めてもらった。	・地域社会や中学校等に工業教育についての理解を深めてもらう。	・教職員「中体験・学校公開等とおし、中学校や地域へ本校の内容を伝えることができた。」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。 ・中体験参加中学生「満足した」「興味を持てた」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。	・学校見学会(12月)の内容を見直し、中学校教員対象学校説明会(6月)を充実させる。 ・中学生体験学習(7月)を引き続き行い、中学生への適切な情報提供を行う。	○教職員集約98.0% ○参加中学生99.0% ・当日は本校の生徒も協力し、中学生の本校教育への理解が深まった。 ・近隣へ出かけ、各科の実習の成果を生かし各種地域貢献活動や交流事業を行った。	A	・中学生体験学習に多くの生徒が参加したが、特長を十分に伝えるには参加人数が多すぎる科もあり、今後改善を図る。 ・「開かれた学校づくり」を念頭に置き、各科とも各種地域貢献活動や交流事業に積極的に取り組む。
	(2)ホームページやメール配信による情報発信の充実	・HPを改善し、学校からの情報発信の充実を務めた。 ・保護者の協力体制は充実している。	・ホームページ更新、携帯メールの発信を充実させる。	・保護者「携帯メール等により学校からの情報がわかった」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。	・ホームページの内容を定期的に更新することにより、情報発信の充実を図る。 ・メール配信をこまめに行うことで、保護者へより迅速かつ確実に情報を伝える。	○保護者集約86.1% ・ホームページを定期的に更新した。 ・まちごみメールをこまめに発信し、本校の教育活動を周知した。	A	・情報発信をできるだけ早く行うよう徹底する。 ・新聞への記事掲載やテレビ出演の機会もあり、本校の情報発信として大きな効果があった。
	(3)PTA活動の推進		・「開かれた学校づくり」を念頭に置き、保護者・地域と連携して諸活動に取り組む。	・PTA活動参加者数のべ500人以上でA。(2)	・PTA活動への参加の呼びかけを様々な機会を捉えて行う。 ・学校行事の案内をより丁寧に行い、保護者への周知を図る。	○PTA活動参加者数555名 ・学校祭、研修旅行などに多くの保護者が参加した。	A	・引き続きPTA活動への呼びかけを丁寧に行い、PTAの活動を活性化させる。

27年度 評価基準

アンケート結果によるもの(部活加入率も準ずる)	A 80%以上 B 70%以上～80%未満 C 60%以上～70%未満 D 50%以上～60%未満 E 50%未満
(1)の項目	A 95%以上 B 93%以上95%未満 C 91%以上93%未満 D 90%以上91%未満 E 90%未満
(2)の項目	A 500人以上 B 450人以上500人未満 C 400人以上450人未満 D 350人以上400人未満 E 350人未満

※の項目=協議による